

特集：木造の可能性

竹島の家

House in Takeshima
徳島県鳴門市

内野輝明 / 内野設計

Teruaki Uchino / uchino architects



オフィス棟。アントニン・レーモンドの自邸の写しである「旧井上邸
一画」に感銘を受けた建主から依頼された住宅。オフィス棟は、狭
み方杖を桁行き方向に置き、登り梁と柱の通りをずらした小屋組と
なっており、南北の底に開かれた無柱空間をつくりだしている。



地域で取り組む木造建築

ゴットフリート・レーモンドの自邸の写しである「旧土居一郎邸」(1932年、森崎市立美術館敷地内に復元)に感銘を受けた建主から依頼された木造建築。旧に家族で運営する会社のオフィス、西にはゲストルームとしても使われる住宅棟がある。間に挟まれる半屋外部分は、レーモンド自邸のテラスの間口寸法を踏襲し、建主が長年にわたって世話をしてきた芝生敷きの北庭と、造園家によってつくられた南庭を繋ぐ通り庭とした。かつては茅葺き屋根の小屋組や足場に使用された小径丸太「ナル」を使って、ローコストでいて気持よく空間を生み出すレーモンドの木造建築を、この自邸の竣工から60年以上経った今、再現

することは可能か？

敷地のある徳島は、伐採期を過ぎた人工スギ林をいかに有効に使うかが大きな課題である。私は自邸からの用途を問わず徳島スギとその加工品の活用を心掛けていたが、「ナル」は足場材の金属化によって市場から姿を消していた。元口末口の大きさが違わないまっすぐな丸太の生産は密植が条件で専用の林を必要とし、京都など床柱の産地に残るばかりである。そこで、「竹島の家」では、床柱用の磨き丸太でナルを代替した。オフィス部分は無柱空間として南北の庭にも開放的にしたいことから、挟み方杖を桁行き方向にも耐力をもつように開き、立体的なトラスにした。ゲストルームの方は間仕切り壁に柱を建てられ

るので一般的な製材登り梁とした。通り庭を挟んで東が丸太切断面、西に製材登り梁の矩形切断面を軒先に並ぶ。要求される機能をかたちにするための構法や川材の選択肢は、特に木造建築では無難にあるといえる。地産地消、そこで手に入るものを使って、特殊な金物は極力使わずに、大工さんたちが受け継いできた技術で建てていくことで、「誰にでもできる地域の木造建築文化」が継承される。華奢で素朴なナルが太めで色白な磨き丸太に変換されて趣は変わったが、柔らかい空間になった。適材を適所にあてがって構成していく。これも木造建築設計の醍醐味であり、あつたつたつ積み重ねていきたい。(内野輝晴)



通り庭から住宅棟と南北の庭を見る。オフィス棟と住宅棟の間に挟まれる通り庭は、レーモンド自邸のテラスに似て、間口は2間。外回りの壁は耐火性を考慮して焼スギ張り。雨がかりのない部分はスギ板張りに透明塗料「ケミクリア」を塗布している。軒先から落ちる雨たれを中から楽しめるよう、軒巻はつけていない。

スギ板張りの通り庭から、建主が長年世話をしてきた芝生敷きの北庭を見る。家族が集まるとその日の気分でも何でもバーベキューが始まる。内と外を繋ぐエリア。



通り庭から住宅棟を見る。構造柱は丸太のオフィス棟、製材の住宅棟ともに1間おきに配置されている。柱間に立っているのはガラスを嵌める方立で、スギ板戸の壁紙と幅を揃えている。下庭中から見ると床の段差は隠れる。



住宅棟から通り庭を介してオフィス棟、南庭を見る。キッチンとソファのある土間スペースは、ゲストを招いてのパーティーなどでは通り庭と一体的に使われる。



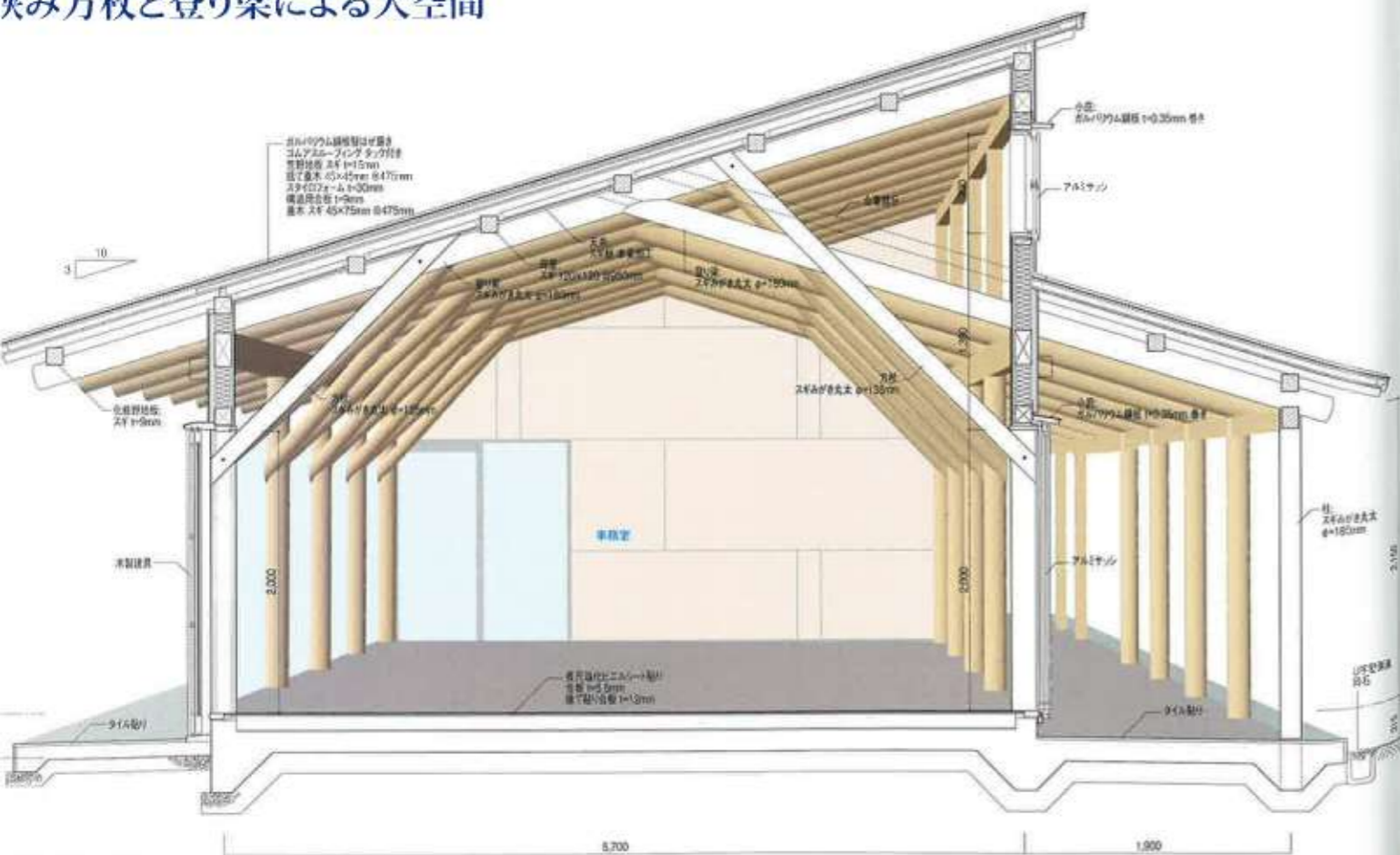
住宅棟から南庭を見る。南庭は、建主が育ててきた広々とした芝張りの北庭とは異なり、四季折々の花や紅葉が楽しめる雑木林になっている。





Wood Architecture 挟み方杖と登り梁による大空間

採光と排気のための高窓を設けたオフィス棟北面。目の前に広がる庭の景色は場所によって表情を変える。冬季にウチノ海から吹き付ける強い北風への備えとして、北面で開閉する部位ではアルミサッシを採用した。



断面詳細図 縮尺1:50

竹島の家

所在地/徳島県鳴門市
主要用途/一戸建ての住宅兼事務所
家族構成/夫婦

設計

内野設計 担当/内野輝明
構造 ケイツー建築設計所 担当/簡本学
植栽 アイムスタイル 担当/前田範泰
設備・外観 内野設計 担当/内野輝明

施工

新築建設 担当/新井博和
電気 中川電気商会 担当/中川雅彦
給排水 吉野川設備 担当/笠井一郎
植栽 アイムスタイル 担当/前田範泰

構造・構法

主体構造・構法 木造在来軸組構法
基礎 べた基礎

規模

階数 地上1階
軒高 5.015mm 最高の高さ 5.312mm
敷地面積 1,718.89㎡
建築面積 221.28㎡
(建設率12.88% 許容60%)
延床面積 175.09㎡
(容積率10.19% 許容80%)

工期

設計期間 2013年9月~2014年12月
工事期間 2015年1月~2015年7月

敷地条件

地域地区 都市計画区域内 市街化区域
一棟低層住居専用品区域
防火区域指定なし 法22条地域
道路幅員 南12m 西6m
駐車台数 5台

外部仕上げ

屋根/ガルバリウム鋼板 t=0.4mm 壁はゼネキ
外壁/阿波の流スギ(那賀川すぎ共販)
一部スギ板張り クレミア塗装
開口部/木製建具 アルミサッシ(LIXIL)
外構/床タイルレガロ(LIXIL) 御影石
コンクリート打放し扉 スギ板塼

内部仕上げ

居間 食堂 台所 事務室
床/長尺塩ビシート張り(サンゲツ)
壁/シナ合板 t=5.5mm 目透し張り
天井/スギ板 t=12mm 本実加工
厨房機器/
システムキッチン/クリナップ ラクセラ
食洗器/クリナップ ZWPP45R14ADK-E
IHクッキングヒーター/
クリナップ ZEFZR6H14RKK-E

換気扇(シェード)/

クリナップ ZRS90NB30FKZ E
家具/制作 (天板:オーク集成材
本体:シナ合板 ポリ合板)
照明/ダウンライト(マックスレイ)
シンク水栓金物/シングルレバー混合栓
クリナップ ZZKM5111TCLE

浴室

床/LIXIL サーモタイル スレートII
壁・天井/ヒノキ板 t=15mm 相ジャクリ加工
ブラネットカラー ハードクリアーオイル 2回塗り
扉壁:LIXIL サーモタイル スレートII
照明/ブラケットライト(遠藤照明)
バスタブ/LIXIL ZB-1400HPL/BW1
壁付きバス水栓金物/LIXIL BF-291W-13
シャワー水栓金物/LIXIL BF-211SSC
乾燥暖房換気扇/三菱電機 V-141BZ
洗面脱衣室
床/ヒノキフローリング t=15mm
壁・天井/シナ合板 t=5.5mm 目透し張り
照明/ブラケットライト(遠藤照明)

洗面カウンター/

カウンター:オーク集成材
扉ほか:シナ合板 ウレタンクリア塗装
シンク:大谷焼φ=400mm(森陶器)

トイレ1・2 手洗い

床/トイレ1:長尺塩ビシート張り(サンゲツ)
トイレ2・手洗い:LIXIL タイルストーンエッジII
壁/シナ合板 t=5.5mm 目透し張り
天井/シナ合板 t=4mm 目透し張り
照明/ブラケットライト(遠藤照明)
便器/アメージュZ(LIXIL)
洗面カウンター/トイレ1:洗面脱衣室と同じ
手洗いは:オーク集成材(カウンター)
TOTO SK7(実装用シンク)

洗面用水栓金物/

トイレ1:単水栓 カクダイ 700-728-13
手洗いは:混合水栓 カクダイ 117-109
ダクトファン/三菱電機 VD-13ZVC2
備置1・2
床/ヒノキフローリング t=15mm
壁/シナ合板 t=5.5mm 目透し張り
天井/スギ板 t=12mm 本実加工
照明/ダウンライト(マックスレイ)

設備システム

空調 冷暖房方式/壁掛けエアコン
換気方式/第三種換気
給排水 給水方式/直任式
排水方式/浄化槽設備
給湯 給湯方式/ガス給湯機
特記なき機器/新建築社写真部



1:挟み方杖。柱とかみ合う部分が欠き込まれている。 2:高窓に向かう長い丸太登り梁に刺さって支える、短い方の登り梁。 3:垂木が載った段階。 4:挟み方杖の間、軒桁に載った丸太登り梁。 5:柱外面より突き出た部分はこの後、垂木に落とされる。 6:高窓部分から見下るす架構。



上:ウチノ海から大毛島(写真中央右)を見る。そのさらに向こうには淡路島がある。
下:南面道路から見る。全面スギの列柱とガラスで構成される立面。



配置図 縮尺1:3,000